



写真家 **六田 知弘** さん
東京都在住 御所市出身

奈良を思う時、まず心に浮かぶのは、生家のある御所の六軒町通りとその向こうに見える葛城山の青い山並である。葛城山には何度も登ったが、山腹から見た御所の町並みや奈良盆地の景色を、今も鮮明に思い浮かべることができる。

絵描きになろうと思っていた大学時代、出会った土門拳^{どもんけん}の室生寺のポスターに、写真でここまで人の魂を引きつける事ができるのか、と衝撃をうけた。その後、土門や入江泰吉をはじめ、国内外様々な写真家の作品にふれる中、東松照明^{とうまつしょうめい}の「日本」という作品集を目にして、さらに大きな衝撃を受け、自分の進む道を決めた。

大和という独特の風土の中で培われた感性が、私の写真家としての仕事の根底にある事は疑いようもなく、ヨーロッパやアジアの史跡、東日本大震災の被災地、そして蓮の花を撮る時でさえ、幼い頃に奈良で見た原風景を無意識のうちに対象の中に見いだし、私はそこにレンズを向けてきたように思う。

私を辛抱強く見守り育ててくれた「培養土」のような、故郷奈良。奈良に生まれ、奈良に住まう皆さんには、誇りを持って、故郷が日本文化の原点の地であることを自覚し、未来にそして世界に開かれた奈良を築き、受け継いでいってほしい。

人権コーナー

毎月11日は
人権を
確かめあう日



てんいち先生 ひかりちゃん

今月のポスター



天理市立天理西中学校 3年
浅井 美樹さん



上牧町立上牧第二小学校 6年
藤井 直哉さん

～あなたの「気づき」が、差別の芽を摘みます～

「〇〇町は、同和地区ですか？」

転居や結婚などにあって、同和地区の所在を教えて欲しいという問い合わせが、今もあります。人生の岐路に立たされるとき、同和地区や同和问题に関わることを避けようとする意識が働くのかもしれませんが。

この「避ける意識」の根底には、私たち自身の中に存在する差別を受けたくないという心理がひそんでいるといわれています。そして、その心理に気づかないことが、結果として差別を助長することにつながっていると考えられます。

私たち一人ひとりが、自分の中にある「避ける意識」の存在を知り、その芽を摘む努力を続けること、差別につながる場面に出くわしたとき、「これは差別だ」と気づき声をあげる勇気を持つことが必要ではないでしょうか。何気ない日常の中で、突然「差別」に出会ったときの私たちの行動を支えるものこそ、日々の「気づき」なのです。

相手を選べるのではなく、お互いに相手を思いやり、受け入れることが、差別のない心地よい社会づくりへつながるのではないのでしょうか。

クイズ & プレゼント

〇〇に当てはまる文字を教えてください。

Q 県立橿原公苑陸上競技場で月・水・金曜日の17時～21時に実施しているのは？

A ナイト〇〇
9月号の答えは“たびたび”でした。
応募総数345件。

ヒントは5ページ

正解者の中から抽選で
五條市の柿を(19ページで紹介)
10名の方にプレゼント!

※個人情報、はプレゼント発送以外には利用いたしません。



締め切りは
11月30日
(消印有効)

【アンケート】 県政広報について①の項目から1つ選び、②についてご意見などご記入ください。

- ①県政番組「県政フラッシュ」、「県民だより ならいいね」、「奈良!そこが知りたい」について
1.よく見ている 2.時々見ている 3.見たことがある
4.あることは知っているが見ていない 5.あることを知らない
②①の番組について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

ハガキに答えと、アンケートの回答、住所、氏名、年齢、電話番号、「県民だより奈良」の感想(良かったコーナー・取り上げてほしい話題・改善点など)を記入して、〒630-8501(住所記入不要)奈良県広報広聴課へ。HP(www.pref.nara.jp/30222.htm)からも11/1以降応募できます。